

庭園をライトアップで「魅力ある観光地」に  
「肥後細川庭園」の取り組み  
(一般財団法人 公園財団)

## 1. 背景

文京区立肥後細川庭園は神田川沿いの閑静なエリアに位置し、熊本藩主、細川家下屋敷の跡地を引き継いだ日本庭園。都電荒川線の早稲田駅から徒歩5分の場所にあり、かつて「新江戸川公園」という名称だったが、庭園を再整備して、平成29年3月に名称変更した。

中央の池をぐるりと囲んで立つ樹木やなだらかな起伏を楽しみながら、回遊できる「池泉回遊式庭園」で、11月下旬から12月初旬には、ヤマモミジやエノキ、ハゼなどの樹木およそ35本が美しく色づく。



文京区立肥後細川庭園

これをLEDライト150基で美しく照らし、「幻想的な光の空間」を演出するのが、令和元年度に3回目を数えたライトアップイベント「秋の紅葉ライトアップ～ひごあかり～」。企画したのは、同園の指定管理者として管理運営を担う一般財団法人公園財団（肥後細川庭園パークアップ共同体）だ。

この事業は東京観光財団が実施する「秋のライトアップモデル事業費助成金」を受けたもの。（\*）公園財団が、同庭園を使った「まちづくり事業」の目玉として企画し、平成28年度に試行実施。東京観光財団の助成が始まった平成29年度から本格実施した。



## 2. 参加費を設定し“自立したライトアップ運営”を実現

通常の開園時間である朝9時から夕方4時半は入場無料。だが、紅葉ライトアップが実施される期間、時間帯（午後5時30分から午後9時まで）に限って、来場者から300円の参加費を徴収する。公園財団の担当者は、通常無料で入れる庭園をイベント時だけ有料化することには大きな不安もあったと言う。

だが、初年度のライトアップは人気ゲーム「刀剣乱舞 online」とのコラボ企画もあり、10日間で入場者数は想定の5000人を大きく上回る10304人。平成30年度も9000人近くが訪れた。昨秋は連日雨が降る天候不順に悩まされ、客足は伸びなかったが、それでも SNS などを通じて評判を呼び、今や都内でも知る人ぞ知る「紅葉ライトアップ」の名所の一つに数えられている。

人気の秘密はライトアップの高いクオリティにある。東京観光財団の助成金は、運営費など「ソフト費用」については、助成期間の3年間で徐々に助成割合が下がっていくが、照明器具の購入など「ハード費用」に限っては、毎年、全額が助成される。そこで、3年間かけて少しずつ照明機材を買い揃え、計150基のライトを所有。質の高いライトアップには十分な機材を揃えることができた。

また照明デザインは、専門のデザイナーに依頼。経験豊かな照明デザイナーの監修により、光の演出で庭園の魅力を引き出す工夫を重ねてきた。

1周400m、高齢者でも15分ほどで池の周りを回遊できる“程良い”広さ、なだらかな斜面を生かした地形は、光の演出をどの場所からも一望でき、加えて見る角度により、違った光の表情が見えるなど、ライトアップの演出上、最適な庭園ともいえる。そのポテンシャルに気づいた公園財団の“発想力”が、夜の時間帯の庭園を参加費300円の「魅力ある観光地」へと変貌させたというわけだ。



## 3. カギは持続可能性の担保

参加費を設定した理由は「持続可能性の担保」だ。東京観光財団の助成期間は最長3年。それが終われば、ライトアップイベントの開催費用を自ら調達して「自走」していかなければならない。

公園財団の取り組みの特徴は、「助成金頼み」のイベント開催ではなく、3年後の「自走」を前提として、準備を続けていた点だ。

ライトアップを継続的に実施していくには、単に来場者数を増やすだけでは足りず、それによって、入場料収入を設定し、開催費用を賄うことが求められる。公園財団は、当初から有料化に踏み切ることで、運営コストを計算し、適正な資金計画を立てるノウハウを積み重ねた。

一方で、費用を低く抑える工夫も必要だ。ライトアップの担当者は、どの樹木にどう照明器具を置くか、照明デザイナーによる配置を詳細な図面にしており、次回以降は、庭園スタッフがそれに基づいてできるだけ事前作業を行って、照明デザイナーが仕上げをするという方式を取ることで経費の節減に努めることにしている。

### <おわりに>

担当者は、今後、春にも神田川沿いを豊かに彩る桜の見頃に合わせ、園内をライトアップし、イベントの拡大を目指すと意気込んでいる。

通常ならば閉園してしまう夜の庭園をライトアップの名所として、「魅力ある観光資源」に育て上げた公園財団の取り組み・・・「観光地としての売りがない」と悩む観光関係者にとっても見習うべき事例となりそうです。

(地域振興部 朝倉浩之)



#### \* 秋のライトアップモデル事業費助成金

公園などの紅葉樹木をライトアップして、観光客にとって魅力ある地域作りに取り組む観光協会や商店街、公的な団体に対し、照明機材の購入費など最大600万円を最長3年間に渡って助成する。東京観光財団ではこのほか春の桜のライトアップにも助成を行なっている。